

9.3 生物・生態系

9.3.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.3-1 に示すとおりである。

表 9.3-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア. 陸上植物の状況

調査方法は、表 9.3-2 に示すとおりである。

表 9.3-2 陸上植物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺とした。 (図 9.3-1 参照)	・植物相 春、夏、秋の三季とした。 ・植物群落 春の一角とした。	・植物相 任意観察法 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ. 陸上動物の状況

調査方法は、表 9.3-3 に示すとおりである。

表 9.3-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺とした。 (図 9.3-1 参照) ・鳥類 1 ライン、1 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・両生類・は虫類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・昆虫類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・クモ類 春、夏、秋、冬の四季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法による。 ・鳥類 任意観察法、ラインセンサス法、定点調査法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意観察法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法による。 ・クモ類 任意観察法、ベイトトラップ法による。



2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」(国土地理院)、「土地条件図」(平成 25 年 8 月 国土地理院)の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」(平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター)の既存資料の整理によった。また、現地調査により、計画地及びその周辺の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 7 月 25 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、東京管区気象台の気象データを整理・解析した。

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 23 年東京都区部」(平成 25 年 5 月 東京都都市整備局)等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号)等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」(平成 27 年 3 月 東京都)、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成 26 年 5 月 東京都)の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.3-4 に示す時期に実施した。

表 9.3-4 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
カヌー・スラローム会場	陸上植物の状況	植物相	夏季：平成 24 年 8 月 20 日 秋季：平成 24 年 10 月 3, 4 日 春季：平成 25 年 5 月 7, 8 日
		植物群落	春季：平成 25 年 5 月 7, 8 日
	陸上動物の状況	哺乳類	夏季：平成 24 年 8 月 20, 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 1, 2 日 冬季：平成 25 年 1 月 8, 9 日 春季：平成 25 年 5 月 22, 23 日
		鳥類	夏季：平成 24 年 8 月 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 2 日 冬季：平成 25 年 1 月 9 日 春季：平成 25 年 5 月 23 日
		は虫類	夏季：平成 24 年 8 月 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 2 日 冬季：平成 25 年 1 月 9 日 春季：平成 25 年 5 月 22, 23 日
		両生類	夏季：平成 24 年 8 月 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 2 日 冬季：平成 25 年 1 月 9 日 春季：平成 25 年 5 月 22, 23 日
		昆虫類	夏季：平成 24 年 8 月 20, 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 4, 5 日 冬季：平成 25 年 1 月 9, 10 日 春季：平成 25 年 5 月 1, 2 日
		クモ類	夏季：平成 24 年 8 月 20, 21 日 秋季：平成 24 年 10 月 4, 5 日 冬季：平成 25 年 1 月 9, 10 日 春季：平成 25 年 5 月 1, 2 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-5(1)～(7)に示すとおり 82 科 346 種の植物が確認された。

計画地周辺の樹木は、クロマツやマテバシイ等の植栽樹のほか、カワヤナギ等の低木が生育している。また、計画地内は主に「造成地」であり、セイタカアワダチソウやチガヤ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ヨモギ、ギョウギシバ、ネズミムギ、エノコログサ、セイバンモロコシ等の草本が生育している。

表 9.3-5(1) 植物確認種

No.	科名	種名
1	トクサ	スギナ
2	ハナヤスリ	フユノハナワラビ
3		ハマハナヤスリ
4	ゼンマイ	ゼンマイ
5	コバノイシカグマ	ワラビ
6	チャセンシダ	トラノオシダ
7	オシダ	ナガバヤブソテツ
8		ベニシダ
9	ヒメシダ	ホシダ
10		ヒメシダ
11	メシダ	イヌワラビ
12		シケシダ
13		ヒカゲワラビ
14	ウラボシ	ノキシノブ
15	マツ	クロマツ
16	マキ	イヌマキ
17	ヤマモモ	ヤマモモ
18	クルミ	オニグルミ
19	ヤナギ	カワヤナギ
20	ブナ	スダジイ
21		マテバシイ
22		アラカシ
23		ウバメガシ
24	ニレ	ムクノキ
25		エノキ
26		アキニレ
27		ケヤキ
28	クワ	ヒメコウゾ
29		カジノキ
30		クワクサ
31		イヌビワ
32		カナムグラ
33		ヤマグワ
34	イラクサ	カラムシ
35	タデ	ヤナギタデ
36		イヌタデ
37		ママコノシリヌグイ
38		ミチヤナギ
39		イタドリ
40		スイバ
41		ヒメスイバ
42		アレチギシギシ

表 9.3-5(2) 植物確認種

No.	科名	種名
43	〔タデ〕	ナガバギシギシ
44		ギシギシ
45		コギシギシ
46		エゾノギシギシ
47	オシロイバナ	オシロイバナ
48	ハマミズナ	ツルナ
49	スベリヒユ	スベリヒユ
50	ナデシコ	ノミノツヅリ
51		オランダミミナグサ
52		ツメクサ
53		シロバナマンテマ
54		ツキミマンテマ
55		ウシハコベ
56		コハコベ
57	アカザ	ホソバノハマアカザ
58		ホコガタアカザ
59		シロザ
60		コアカザ
61		ウラジロアカザ
62	ヒユ	ヒナタイノコズチ
63	モクレン	コブシ
64	クスノキ	クスノキ
65		ヤブニッケイ
66		タブノキ
67		シロダモ
68		ケキツネノボタン
69		キツネノボタン
70	アケビ	アケビ
71		ミツバアケビ
72	ツヅラフジ	アオツヅラフジ
73	ドクダミ	ドクダミ
74		ハンゲショウ
75	ツバキ	ヤブツバキ
76		ハマヒサカキ
77	ケシ	タケニグサ
78		ナガミヒナゲシ
79	アブラナ	セイヨウアブラナ
80		ナズナ
81		タネツケバナ
82		ミチタネツケバナ
83		アコウグンバイ
84		カラクサナズナ
85		マメグンバイナズナ
86		オランダガラシ
87		イヌガラシ
88		スカシタゴボウ
89		カキネガラシ
90	ベンケイソウ	コモチマンネングサ
91	トベラ	トベラ
92	バラ	ヘビイチゴ
93		ヤブヘビイチゴ
94		オキジムシロ
95		タチバナモドキ
96		トキワサンザシ
97		シャリンバイ
98		ノイバラ
99		テリハノイバラ
100		セイヨウヤブイチゴ

表 9.3-5(3) 植物確認種

No.	科名	種名
101	〔バラ〕	クサイチゴ
102		ナワシロイチゴ
103		カジイチゴ
104	マメ	ネムノキ
105		ヤブマメ
106		ツルマメ
107		ヤハズソウ
108		ハイメドハギ
109		ネコハギ
110		コメツブウマゴヤシ
111		シナガワハギ
112		クズ
113		タンキリマメ
114		ハリエンジュ
115		コメツブツメクサ
116		ムラサキツメクサ
117		シロツメクサ
118		ヤハズエンドウ
119		スズメノエンドウ
120		カスマグサ
121		フジ
122	カタバミ	カタバミ
123		アカカタバミ
124		ムラサキカタバミ
125		オッタチカタバミ
126	フウロソウ	アメリカフウロ
127	トウダイグサ	エノキグサ
128		オオニシキソウ
129		コニシキソウ
130		アカメガシワ
131		ナンキンハゼ
132	ユズリハ	ユズリハ
133		ヒメユズリハ
134	ミカン	カラスザンショウ
135	ニガキ	シンジュ
136	センダン	センダン
137	ウルシ	ヌルデ
138	モチノキ	モチノキ
139		クロガネモチ
140	ニシキギ	ツルウメモドキ
141		ツルマサキ
142		マサキ
143	ブドウ	ノブドウ
144		ヤブガラシ
145		ツタ
146		エビヅル
147	アオイ	フヨウ
148	グミ	ナワシログミ
149		アキグミ
150	ウリ	アレチウリ
151		キカラスウリ
152	アカバナ	メマツヨイグサ
153		コマツヨイグサ
154		ユウゲショウ
155		マツヨイグサ
156	ミズキ	ミズキ
157	ウコギ	タラノキ
158		カクレミノ

表 9.3-5(4) 植物確認種

No.	科名	種名
159	〔ウコギ〕	ヤツデ
160		キヅタ
161	セリ	ツボクサ
162		ノチドメ
163		オオチドメ
164		チドメグサ
165		ウチワゼニクサ
166		セリ
167		オヤブジラミ
168	ツツジ	アセビ
169	サクラソウ	コナスビ
170	モクセイ	トウネズミモチ
171		イボタノキ
172	アカネ	ヒメヨツバムグラ
173		ヤエムグラ
174		ヘクソカズラ
175		ハナヤエムグラ
176	ヒルガオ	コヒルガオ
177		ヒルガオ
178		ハマヒルガオ
179	ムラサキ	ハナイバナ
180		コンフリー
181		キュウリグサ
182	クマツヅラ	クサギ
183		アレチハナガサ
184		ダキバアレチハナガサ
185		ハマゴウ
186	シソ	キラソウ
187		トウバナ
188		ホトケノザ
189		ヒメオドリコソウ
190		マルバハッカ
191	ナス	クコ
192		ワルナスビ
193		ヒヨドリジョウゴ
194		イヌホオズキ
195		アメリカイヌホオズキ
196	ゴマノハグサ	マツバウンラン
197		ムラサキサギゴケ
198		トキワハゼ
199		ビロードモウズイカ
200		タチイヌノフグリ
201		フラサバソウ
202		ムシクサ
203		オオイヌノフグリ
204		カワヂシャ
205	ノウゼンカズラ	キリ
206	オオバコ	オオバコ
207		ヘラオオバコ
208		タチオオバコ
209	スイカズラ	スイカズラ
210		ガマズミ
211	オミナエシ	ノヂシャ
212	キキョウ	ミゾカクシ
213	キク	ブタクサ
214		オオブタクサ
215		ヨモギ

表 9.3-5(5) 植物確認種

No.	科名	種名
216	〔キク〕	ヒロハハウキギク
217		ウラギク
218		アメリカセンダングサ
219		コセンダングサ
220		トキンソウ
221		アメリカオニアザミ
222		オオアレチノギク
223		イソギク
224		アメリカタカサブロウ
225		ヒメムカシヨモギ
226		ハルジオン
227		ツワブキ
228		ハハコグサ
229		タチチチコグサ
230		チチコグサ
231		チチコグサモドキ
232		ウラジロチチコグサ
233		キクイモ
234		ブタナ
235		オオヂシバリ
236		イワニガナ
237		アキノノゲシ
238		ホソバアキノノゲシ
239		フキ
240		キヌガサギク
241		ノボロギク
242		セイタカアワダチソウ
243		メリケントキンソウ
244		オニノゲシ
245		ノゲシ
246		ヒメジョオン
247		セイヨウタンポポ
248		アイノコセイヨウタンポポ
249		イガオナモミ
250		オニタビラコ
251	ユリ	ノビル
252		ヒメヤブラン
253		ヤブラン
254		ジャノヒゲ
255		ナガバジャノヒゲ
256		サルトリイバラ
257	ヒガンバナ	ヒガンバナ
258		タマスダレ
259	ヤマノイモ	ヤマノイモ
260		オニドコロ
261	アヤメ	キショウブ
262		ニワゼキショウ
263		オオニワゼキショウ
264		アキマルニワゼキショウ
265	イグサ	クサイ
266		スズメノヤリ
267	ツユクサ	ツユクサ
268	イネ	アオカモジグサ
269		カモジグサ
270		メリケンカルカヤ
271		コブナグサ
272		カラスムギ
273		ミノゴメ

表 9.3-5(6) 植物確認種

No.	科名	種名
274	〔イネ〕	ヒメコバンソウ
275		イヌムギ
276		ジュズダマ
277		ギョウギシバ
278		メヒシバ
279		コメヒシバ
280		アキメヒシバ
281		イヌビエ
282		ケイヌビエ
283		ヒメイヌビエ
284		オヒシバ
285		シナダレスズメガヤ
286		カゼクサ
287		コスズメガヤ
288		オニウシノケグサ
289		ムギクサ
290		ケナシチガヤ
291		チガヤ
292		ネズミムギ
293		アシボソ
294		オギ
295		ススキ
296		ケチヂミザサ
297		オオクサキビ
298		シマスズメノヒエ
299		キシュウスズメノヒエ
300		チクゴスズメノヒエ
301		スズメノヒエ
302		タチスズメノヒエ
303		チカラシバ
304		クサヨシ
305		ヨシ
306		マダケ
307		モウソウチク
308		アズマネザサ
309		ミゾイチゴツナギ
310		スズメノカタビラ
311		ナガハグサ
312		タマオオスズメノカタビラ
313		ヒエガエリ
314		アキノエノコログサ
315		コツブキンエノコロ
316		キンエノコロ
317		エノコログサ
318		セイバンモロコシ
319		ナギナタガヤ
320		シバ
321	サトイモ	セキショウ
322		カラスビシャク
323	ガマ	ヒメガマ
324		ガマ
325		コガマ
326	カヤツリグサ	メアオスゲ
327		シラスゲ
328		マスクサ
329		ナキリスゲ
330		アオスゲ
331		ヌカスゲ

表 9.3-5(7) 植物確認種

No.	科名	種名
332	〔カヤツリグサ〕	シオクグ
333		チャガヤツリ
334		ヒメクグ
335		メリケンガヤツリ
336		コゴメガヤツリ
337		アオガヤツリ
338		イガガヤツリ
339		ハマスゲ
340		イソヤマテンツキ
341		ヤマイ
342		イセウキヤガラ
343	ラン	ギンラン
344		キンラン
345		シュンラン
346		ネジバナ
計	82 科	346 種

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物Ⅰ（維管束植物））」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される植物種として抽出した結果、表 9.3-6 に示す 7 科 11 種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表 9.3-7(1)～(2)に示すとおりである。

表 9.3-6 注目される植物

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	タデ	コギシギシ			VU	
2	ドクダミ	ハンゲショウ				CR
3	マメ	タンキリマメ				VU
4	ゴマノハグサ	カワデシャ			NT	
5	キク	ウラギク			NT	EN
6	カヤツリグサ	シオクグ				VU
7		アオガヤツリ				NT
8		イソヤマテンツキ				NT
9		イセウキヤガラ				NT
10	ラン	ギンラン				VU
11		キンラン			VU	VU
計	7 科	11 種			4 種	9 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国際希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 NT:準絶滅危惧 VU:絶滅危惧Ⅱ類

表 9.3-7(1) 注目される植物の生態及び確認状況

【種 名】：コギシギシ 【分 布】：本州（関東以西）、中国、四国、九州 【形 態】：越年草。花期は4～6月。水田のあぜや畑、道ばたなどに生育する。 【確認状況】：春季に、計画地外のシバ草地の縁において、個体が確認された。	
【種 名】：ハンゲショウ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：多年草、群落となる。低地の水辺や湿地に生育する。花期は6～8月。 【確認状況】：秋季に、計画地外の池の縁でイヌタデなどと混生する、未開化の小型個体が確認された。	
【種 名】：タンキリマメ 【分 布】：本州（関西以西）、四国、九州、南西諸島 【形 態】：ツル性の多年草。花期は7～10月。海岸や平地から低山地の草原、林縁などに生育する。 【確認状況】：夏季及び秋季に、計画地南側のクロマツ植林の林縁部、計画地外の緑樹林の林縁部において一部結実した小型の個体が確認された。また、春季にはクロマツ植林の林縁部で幼体が確認された。	
【種 名】：カワヂシャ 【分 布】：本州、中国、四国、九州、南西諸島 【形 態】：越年草。花期は4月～6月。小川のほとりや水田に生育する。 【確認状況】：春季に、計画地外においてヨシやキショウブ、ケイツネノボタンなどと混生した開花個体が確認された。	
【種 名】：ウラギク 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：越年草。花期は10月～11月。海岸の湿地に群生する。 【確認状況】：秋季及び春季に、計画地外の水際において、ヨシなどと混生する個体が確認された。秋季に確認された個体の多くはつばみをつけ始めていた。	
【種 名】：シオクグ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：多年草。花期は5～6月。海岸、河口の塩性湿地（汽水域）に生育する。 【確認状況】：秋季に、計画地外の水際近くの水中において、群生した個体群が確認された。	

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」(平成元年2月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 木本Ⅱ」(平成元年2月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅰ」(昭和57年1月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅱ」(昭和57年3月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅲ」(昭和56年10月 (株)平凡社) による。

表 9.3-7(2) 注目される植物の生態及び確認状況

【種 名】: アオガヤツリ 【分 布】: 本州、四国、九州 【形 態】: 一年草。花期は 8～10 月。池沼のほとりや河川敷の泥湿地などに生育する。 【確認状況】: 秋季に、計画地外のヨシ原内において結実した個体が確認された。	
【種 名】: イソヤマテンツキ 【分 布】: 本州(千葉、石川以西)、四国、九州、南西諸島 【形 態】: 一年草。叢生する。海岸の塩性湿地に生育する。 【確認状況】: 秋季に、計画地外の石やコンクリートの隙間において、多数が群生しており、結実している個体群が確認された。	
【種 名】: イセウキヤガラ 【分 布】: 北海道、本州、四国、九州 【形 態】: 抽水性の多年草。花期は 7～10 月。沿岸の潮汐の影響を受ける河口付近などにまれに生育する。 【確認状況】: 秋季に、計画地外の水際において個体が確認された。しかし、春季には生育基盤ごと無くなっていた。	
【種 名】: ギンラン 【分 布】: 北海道、本州、四国、九州 【形 態】: 多年草。山野の樹林内に生育する。花期は 5～6 月。 【確認状況】: 春季に、計画地外のマテバシイやスダジイ植栽地において、キンランと混生する開花個体が確認された。	
【種 名】: キンラン 【分 布】: 本州(秋田以南)、四国、九州 【形 態】: 多年草。山野の樹林内に生育する。花期は 4～6 月。 【確認状況】: 春季に、計画地外のマテバシイやスダジイ植栽地において個体が確認された。ギンランと混生する個体や開花個体が多く見られた。	

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」(平成元年 2 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 木本Ⅱ」(平成元年 2 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅰ」(昭和 57 年 1 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅱ」(昭和 57 年 3 月 (株)平凡社)、「日本の野生植物 草本Ⅲ」(昭和 56 年 10 月 (株)平凡社) による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等の区分は、表 9.3-8 に示すとおりである。

調査地域は、多年生草本群落が 1 区分、単子葉草本群落が 3 区分、木本群落は 3 区分、人工構造物その他区分が 6 区分、計 13 区分に分類された。

表 9.3-8 植生区分

植生区分	群落名
多年生草本群落	セイタカアワダチソウ群落
単子葉草本群落	ヨシ群落
	ススキ群落
	メヒシバ・エノコログサ群落
木本群落	クロマツ植林
	モウソウチク・マダケ植林
	植栽樹林群（混交）
その他	芝地・グラウンド
	花壇
	施設地等
	道路
	人工裸地
	開放水面

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-9 に示すとおりである。夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認され、確認種数は 1 目 1 科 1 種であった。

表 9.3-9 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
1	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ		○		
計	1 目	1 科	1 種	0 種	1 種	0 種	0 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種はなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-10(1)及び(2)に示すとおり 13 目 31 科 65 種の鳥類が確認された。

確認された鳥類は、陸鳥ではオナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ等の樹林性の種のほか、ヒバリ、オオヨシキリ等の草地性の種であった。また、水鳥ではカルガモ等のカモ類、アオサギやコサギといったサギ類、キアシシギやイソシギといったシギ類が確認された。

確認された種の多くは留鳥が占める構成となったが、旅鳥として、冬季にはツグミ、シロハラ等、春季にはキアシシギ、キビタキ等、夏季にはオオヨシキリが各々確認された。

表 9.3-10(1) 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
1	カモ	カモ	ヒドリガモ			○	
2			カルガモ	○	○	○	○
3			オナガガモ	○			○
4			コガモ		○	○	
5			ホシハジロ			○	
6			スズガモ			○	
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○
8			ハジロカイツブリ			○	
9	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	
10	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○
11	ペリカン	サギ	ゴイサギ		○		
12			アカガシラサギ	○			
13			アオサギ	○	○	○	○
14			ダイサギ	○	○	○	○
15			コサギ	○	○	○	○
16	ツル	クイナ	オオバン			○	
17	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ		○		
18	チドリ	チドリ	コチドリ	○			
19		セイタカシギ	セイタカシギ	○	○		
20		シギ	アオアシシギ		○		
21			キアシシギ	○	○		○
22			ソリハシシギ	○			
23			イソシギ	○	○	○	○
24			トウネン	○			
25		カモメ	ウミネコ	○	○		
26			オオセグロカモメ	○	○		
27	タカ	タカ	トビ		○		
28			オオタカ			○	
29			ノスリ			○	
30	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○			
31	キツツキ	キツツキ	コゲラ		○	○	
32	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ			○	
33	スズメ	ヒバリ	ヒバリ				○
34		モズ	モズ		○	○	
35		カラス	カケス		○		
36			オナガ		○	○	○
37			ハシブトガラス	○	○	○	○
38		キクイタダキ	キクイタダキ			○	
39		シジュウカラ	ヤマガラ		○	○	
40			ヒガラ			○	
41			シジュウカラ	○	○	○	○
42		ツバメ	ツバメ	○			○
43		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○
44		ウグイス	ウグイス			○	
45		メジロ	メジロ	○		○	
46		ヨシキリ	オオヨシキリ	○			○
47		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○
48			コムクドリ	○			

表 9.3-10(2) 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
49	〔スズメ〕	ヒタキ	シロハラ			○	
50			アカハラ			○	
51			ツグミ			○	
52			ルリビタキ			○	
53			ジョウビタキ			○	
54			イソヒヨドリ		○		
55		スズメ	スズメ	○	○	○	○
56		セキレイ	キセキレイ		○		
57			ハクセキレイ	○	○	○	
58			セグロセキレイ			○	
59			タヒバリ			○	
60		アトリ	カワラヒワ		○		○
61			ウソ			○	
62			シメ			○	
63		ホオジロ	ホオジロ			○	
64			アオジ			○	
65	ハト	ハト	カワラバト	○	○	○	○
計	13 目	31 科	65 種	29 種	32 種	43 種	20 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.3-11 に示す 26 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.3-12(1)～(5)に示すとおりである。

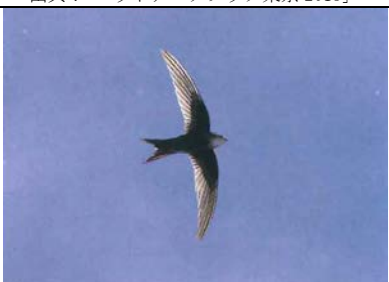
表 9.3-11 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	カモ	カモ	スズカモ				*
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				NT
3	ペリカン	サギ	ダイサギ				VU
4			コサギ				VU
5	ツル	クイナ	オオバン				VU
6	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ				*
7	チドリ	チドリ	コチドリ				VU
8		セイタカシギ	セイタカシギ			VU	EN
9		シギ	アオアシシギ				NT
10			キアシシギ				VU
11			ソリハシシギ				VU
12			イソシギ				VU
13			トウネン				NT
14	タカ	タカ	トビ				NT
15			オオタカ			NT	CR
16			ノスリ				EN
17	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ				VU
18	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				EN
19	スズメ	モズ	モズ				VU
20		キクイタダキ	キクイタダキ				*
21		シジュウカラ	ヤマガラ				VU
22		ヒバリ	ヒバリ				VU
23		ヨシキリ	オオヨシキリ				VU
24		ヒタキ	イソヒヨドリ				DD
25		セキレイ	セグロセキレイ				VU
26		アトリ	ウソ				NT
計	10 目	19 科	26 種	0 種	0 種	2 種	25 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
 ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
 ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧
 ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
 CR:絶滅危惧 I 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 *:留意種

表 9.3-12(1) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：スズガモ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州で冬鳥。 【形 態】：河口、内湾、港などに生息する。潜水してアサリなどの貝類などを食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外の海域において休息及び採餌する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：カイツブリ 【分 布】：北海道では夏鳥。本州、四国、九州、南西諸島で留鳥。 【形 態】：池、湖沼、河川などに生息し、主に開けた水面周辺の水草やヨシに水草を積み重ねて巣を作る。水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：全期に、計画地外の調整池及び鳥類園において採餌及び休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ダイサギ 【分 布】：本州では漂鳥。四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：水田、湿地、河川、湖沼、池、河口、干潟などの浅い水域で採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林で集団で営巣する。魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：全期に、計画地外の水路において休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：コサギ 【分 布】：本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：水田、河川、湖沼、干潟など浅い水辺で、採食し、人やカラス類によるかく乱の少ない樹林に集団で営巣し、休息する。魚類やカエル類、甲殻類や昆虫類などを食べる。 【確認状況】：全期に、計画地外の水路で採餌する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：オオバン 【分 布】：北海道、本州（東北北部）では夏鳥。本州（東北南部以南）、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：主にヨシなどが生育する湖沼、池、河川、水田などに生息し、水草の葉、茎、種子や昆虫類、貝類、甲殻類などを食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外において休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：アマツバメ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島（北部）で夏鳥。 【形 態】：海岸から高山帯まで生息し、飛翔性昆虫を食べる。山地の断崖や海岸の岸壁の亀裂などに営巣する。 【確認状況】：秋季に、計画地外の陸域から海上にかけて、大規模な採餌する群れが確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

表 9.3-12(2) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：コチドリ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では夏鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：河川敷、海岸の砂洲、造成地などの草の少ない砂礫地で繁殖する。主に小型のカニや底生動物、昆虫類を食べる。 【確認状況】：夏季に、計画地外の鳥類園において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：セイタカシギ 【分 布】：本州では夏鳥または旅鳥。北海道、四国、九州、南西諸島では旅鳥。 【形 態】：干潟、河口、湖沼、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類、小魚などを食べる。 【確認状況】：夏季及び秋季に、計画地外の鳥類園において採餌及び休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：アオアシシギ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形 態】：干潟、河口、水田、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類、ミミズ類などを食べる。 【確認状況】：秋季に、計画地外の鳥類園において休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：キアシシギ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形 態】：干潟、河口、岩場、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：夏季、秋季及び春季に、計画地外の鳥類園及び海岸において、採餌及び休息する個体が確認された。	
【種 名】：ソリハシシギ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形 態】：干潟、河口、海岸、河川などに生息し、昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：夏季に、計画地外の鳥類園において休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：イソシギ 【分 布】：北海道、本州（東北北部）では夏鳥。本州（東北南部以南）、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：河川、湖沼、海岸、干潟などに生息する。海岸の砂洲や河川の中州などの草地で営巣する。昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：全期に、計画地外の鳥類園及び海岸において採餌、休息、移動する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

表 9.3-12(3) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種名】：トウネン 【分布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で旅鳥。 【形態】：干潟、河口、河川、水田などに生息し、ゴカイ類、甲殻類、昆虫類、植物の種子などを食べる。 【確認状況】：夏季に、計画地外の鳥類園において採餌及び休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種名】：トビ 【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形態】：海岸部や平地の河川・池沼に多いが、高山にも生息する。樹林で繁殖し、主に死肉を食べるが、ネズミ類、ヘビ類、カエル類などの小動物を食べることもある。 【確認状況】：秋季に、計画地及び計画地外の上空を飛翔あるいは採餌する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種名】：オオタカ 【分布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥または漂鳥。 【形態】：平地から山地の樹林に生息し、繁殖する。ハト類やカモ類など主に中型の鳥類を食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外の鳥類園において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種名】：ノスリ 【分布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。 【形態】：山地の樹林で繁殖し、冬は広大な干拓地、河川敷、耕作地などで越冬する。主にネズミ類などの小動物を食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種名】：カワセミ 【分布】：北海道では夏鳥。本州、四国、九州、南西諸島では留鳥。 【形態】：平地から低山地の河川、湖沼、都市公園の池などに生息する。小魚やザリガニ、エビ類、カエル類などを食べる。 【確認状況】：夏季に、計画地外において移動及び休息する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種名】：チョウゲンボウ 【分布】：北海道、本州（中部以南）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。 【形態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外において飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

表 9.3-12(4) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：モズ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・爬虫類などを食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、計画地及び計画地外の植樹林において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：キクイタダキ 【分 布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州、南西諸島では冬鳥。 【形 態】：亜高山帯の針葉樹林に生息し、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外のクロマツ植林において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ヤマガラ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、南西諸島で留鳥。 【形 態】：平地から山地の樹林に生息し、植物の種子や昆虫類、クモ類などを食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、計画地外において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ヒバリ 【分 布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥または漂鳥。四国、九州では留鳥。 【形 態】：草地、耕作地などに生息し、植物の種子や昆虫類などを食べる。 【確認状況】：春季に、計画地外において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：オオヨシキリ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州で夏鳥。 【形 態】：河口、河川、湖沼のヨシ原などに生息し、昆虫類やクモ類などを食べる。 【確認状況】：夏季及び春季に、計画地外の鳥類園のヨシ原において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：イソヒヨドリ 【分 布】：北海道では夏鳥。本州、四国、九州、南西諸島では留鳥。 【形 態】：海岸の岩場や崖、河川などに生息するが、市街地でも見られる。岩場があれば内陸でも生息する。昆虫類や甲殻類、両生・爬虫類などを食べる。 【確認状況】：秋季に、計画地外の海上において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

表 9.3-12(5) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：セグロセキレイ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥。 【形 態】：平地から山地の河川、湖沼、耕作地などに生息し、昆虫類を食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外の河岸において採餌する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ウン 【分 布】：北海道、本州（中部以北）では留鳥または漂鳥。四国、九州では冬鳥。 【形 態】：繁殖期は亜高山帯の針葉樹林、冬は平地から山地の樹林に生息し、樹木の芽やつばみ、種子、昆虫類などを食べる。 【確認状況】：冬季に、計画地外において個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-13 に示すとおり 2 目 2 科 2 種の爬虫類が確認された。

確認された爬虫類は、ニホンカナヘビ及びアカミミガメであった。

表 9.3-13 は虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
1	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ	○	○		○
2	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○		
計	2 目	2 科	2 種	2 種	2 種	0 種	1 種

b. 注目される種

確認されたは虫類のうち、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の掲載種を抽出した結果、表 9.3-14 に示す 1 種が該当した。

注目されるは虫類の生態及び確認状況は、表 9.3-15 に示すとおりである。

表 9.3-14 注目されるは虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ				VU
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注) 選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種

③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト は虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種

④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種

VU: 絶滅危惧 II 類

表 9.3-15 注目されるは虫類の生態及び確認状況

【種名】	ニホンカナヘビ	
【分布】	北海道、本州、四国、九州	
【形態】	ニホントカゲに比べずっと細身で尾は長く全長の3分の2強。体色は背面が褐色、腹面は白または黄色。体側に白と暗褐色の縞がはしる。背面の鱗にはうね(キール)があり、ザラザラした感じ。幼体の体色は全体に暗く、特に尾部は顕著。昼行性でクモ類や昆虫類、ダンゴムシなど陸生甲殻類などを食べる肉食性。尾は自切する。	
【確認状況】	夏季及び秋季に、計画地外で成体が確認された。	

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において確認された両生類は表 9.3-16 に示すウシガエル1種であった。

表 9.3-16 両生類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
1	無尾	アカガエル	ウシガエル		○		
計	1 目	1 科	1 種	0 種	1 種	0 種	0 種

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(オ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-17(1)～(5)に示すとおり 12 目 113 科 282 種の昆虫類が確認された。

確認された主な昆虫類は、アオマツムシが多数見られた他、ダンダラテントウやゴモクムシダマシ、クマゼミなどが確認された。

表 9.3-17(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
1	トンボ	イトトンボ	アジイトトンボ		○		○
2		ヤンマ	キンヤンマ	○			
3		トンボ	ショウジョウトンボ	○			
4			シオカウトンボ	○			
5			ウスハネキトンボ	○	○		
6			コシアキトンボ	○			
7			ナツアカネ		○		
8			アキアカネ		○		
9			ノシメトンボ		○		
10	ゴキブリ	チャハネゴキブリ	モリチャハネゴキブリ		○	○	○
11	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	○	○	○	
12			オオカマキリ	○	○		
13	ハエ	コオロギ	ハラオカメコオロギ		○		
14			マダラス		○		
15			エンマコオロギ		○		
16			ツツレサセコオロギ		○		
17		マツムシ	アオマツムシ	○	○		
18		カネタタキ	カネタタキ		○		
19		カンタン	カンタン		○		
20		キリギリス	ツユムシ		○		
21			ウスイロササキリ	○	○		
22			ホシササキリ		○		
23		オンブハエ	オンブハエ	○			
24		ハエ	ショウリョウハエ	○	○		
25			マダラハエ		○		
26			ヒナハエ	○			
27			トノサマハエ		○		
28			エゾイナコ		○		
29			ツチイコ		○		
30			イホハエ		○		
31		ヒシハエ	ハラヒシハエ		○		
32		ノミハエ	ノミハエ		○		
33	ハサミムシ	ハサミムシ	ハマハサミムシ	○	○		
34			ヒゲシロハサミムシ			○	
35		オオハサミムシ	オオハサミムシ			○	○
36	アザミウマ	クダアザミウマ	クダアザミウマ科の一種		○		
37	カメムシ	ウンカ	ヒメトビウンカ		○		
38			ウンカ科の一種	○	○		
39		クンパインカ	ミトリクンパインカ	○		○	
40			ヒラタクンパインカ	○	○		
41		アオハハコロモ	アオハハコロモ	○	○	○	
42		ハコロモ	アミカサハコロモ	○	○		
43		ゼミ	クマゼミ	○			
44			アブラゼミ	○		○	
45			ツクツクボウシ	○			
46			ミンミンゼミ	○			
47			ニイニイゼミ	○			
48			アワフキムシ	○			
49		アワフキ	シロビエアワフキ	○		○	
50			ハマアワフキ	○			
51		ミズナク	コミズナク			○	
52		フトヨコハエ	Pagaronia 属の一種				○
53		オオヨコハエ	ツマクオオヨコハエ			○	
54			オオヨコハエ		○	○	
55		ヨコハエ	イネマダラヨコハエ		○		
56			イチモンジヨコハエ		○		
57			リンコマダラヨコハエ			○	
58		アブラムシ	アブラムシ科の一種				○
59		アメンボ	ヒメアメンボ				○
60		カスミカメシ	ナカガハカスミカメ		○		
			Lygocoris 属の一種		○		

表 9.3-17(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
61	〔カメムシ〕	〔カスミカメムシ〕	アカシカスミカメ		○		
62			イネホソミドリカスミカメ	○	○	○	○
63			ヒョウタンカスミカメ			○	
64		マキハサシカメ	ハネナカマキハサシカメ		○	○	
65		クンバ イムシ	アリダチリククンバ イ	○	○		
66			ヤブカラシクンバ イ	○			
67			ヘルクサズラクンバ イ		○		
68			トサカクンバ イ			○	
69		イトカメムシ	イトカメムシ		○		
70		ナカカメムシ	ヒメナカカメムシ			○	
			ヒメナカカメムシ属の一種		○		
71			Cymus 属の一種		○		
72			コバネナカカメムシ	○	○		○
73			ホソコバネナカカメムシ	○			
74			ヒメオオカメムシ	○	○		
75			オオカメムシ			○	
76			ヒゲナカカメムシ			○	
77			サヒヒョウタンナカカメムシ	○			
78			クロアシホソナカカメムシ		○		
79			コバネヒョウタンナカカメムシ	○			
80		ホシカメムシ	クロホシカメムシ		○		
81		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ			○	
82		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ		○	○	
83			ホソヘリカメムシ				○
84		ヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ	○	○		
85			ホシハラヒロヘリカメムシ	○			
86			ツマキヘリカメムシ			○	
87			キハラヘリカメムシ	○			
88		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ		○		
89		マルカメムシ	マルカメムシ	○	○	○	
90		ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ				○
91			ツチカメムシ			○	○
92		カメムシ	ウシカメムシ			○	
93			フチヒゲカメムシ		○		
94			シラホシカメムシ		○		
95			ツヤアオカメムシ		○		
96			クサギカメムシ			○	
97			イチモンシカメムシ		○		
98			チャバネアオカメムシ	○	○	○	
99			エビイロカメムシ	○			
100		ツノカメムシ	エサキモンキツノカメムシ			○	
101	アミメカゲロウ	ヒメカゲロウ	チャバネヒメカゲロウ			○	
102		クサカゲロウ	ニッポクサカゲロウ		○		○
103	コウチュウ	オサムシ	セアカヒラタコサムシ			○	
104			ヒメツヤヒラタコサムシ			○	
105			オオクロツヤヒラタコサムシ			○	
106			ニセマルカゲタコサムシ		○		
107			ケウスコモクムシ		○	○	○
108			ヒメケコモクムシ		○		
109			クロコモクムシ			○	
110			ウスアカクロコモクムシ		○	○	
111			ミドリリマメコモクムシ	○			
112			ヤマトツクリコサムシ				○
113			ミズキワトキリコサムシ		○		
114			フタホシアトキリコサムシ			○	
115		カムシ	トケハゴマフカムシ		○		
116		エンマムシ	ニセトウカネエンマムシ				○
117		シデムシ	オオヒラタシデムシ	○		○	
118		ハネカクシ	キハネニセユミシヅハネカクシ		○		
119			ムネヒロハネカクシ			○	
120			Philonthus 属の一種			○	
121			クロズシリホソハネカクシ		○		
122		センチコカネ	センチコカネ			○	
123		コカネムシ	クロマルエンマコカネ			○	
124			コケシマクソコカネ				○
125			アシナカコカネ				○
126			マルカゲタヒロウトコカネ	○	○		
127			コイチャコカネ				○
128			アオトウカネ	○	○	○	
129			マメコカネ	○			
130			コアオハナムケリ				○
131			シロテンハナムケリ	○			

表 9.3-17(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
132	〔コウチュウ〕	タマムシ	ヒシモンナカ [○] タマムシ				○
133			ウメチビ [○] タマムシ		○		
134			サシゲ [○] チビ [○] タマムシ			○	
135			ヤノナミカ [○] タチビ [○] タマムシ			○	○
136		コメツキムシ	マダ [○] ラチビ [○] コメツキ		○		
137			サビ [○] キコリ	○	○	○	
138			ヒメサビ [○] キコリ			○	○
139			スナサビ [○] キコリ				○
140			クシコメツキ				○
141		ジ [○] ョウカイホ [○] ン	セホ [○] シジ [○] ョウカイ				○
142		シハ [○] ンムシ	ヒメホコリタケシハ [○] ンムシ		○		
143		ケンキスイ	クロハナクシキスイ	○	○		
144		ネスイムシ	オハ [○] ケデ [○] オネスイ		○		
145		ヒメハナムシ	キイロアシナカ [○] ヒメハナムシ		○		
146		キスイムシ	キイロセマルキスイ		○		
147			ナカ [○] マルキスイ		○		
148			マルカ [○] タキスイ		○		
149		ミジ [○] ンムシ	ムクゲ [○] ミジ [○] ンムシ		○		
150		デントウムシタ [○] マシ	ヨツホ [○] シデントウタ [○] マシ		○		
151		デントウムシ	ムツホ [○] シデントウ				○
152			セスジ [○] ヒメデントウ		○		
153			ハレヤヒメデントウ				○
154			コクロヒメデントウ		○		
155			クロスジ [○] ヒメデントウ		○		
156			キダシクロヒメデントウ		○		
157			ヒメアカホシデントウ		○		
158			アカイロデントウ		○		
159			ヘ [○] ニハリデントウ				○
160			ムーアシロホシデントウ		○		○
161			ナナホシデントウ		○	○	○
162			ナミデントウ	○	○	○	○
163			キイロデントウ			○	○
164			ダ [○] ンタ [○] ラデントウ		○		
165		コキノコムシ	チャイロコキノコムシ		○		
166		カミキリモト [○] キ	モモフ [○] トカミキリモト [○] キ				○
167		アリモト [○] キ	ケオビ [○] アリモト [○] キ		○		
168			ヨツホ [○] シホツアリモト [○] キ		○		
169		ハナノミタ [○] マシ	クロフナカ [○] タナノミ				○
170		ハムシタ [○] マシ	ヒケ [○] フ [○] トコ [○] ミムシタ [○] マシ	○			
171		クチキムシ	クチキムシ			○	
172		ゴ [○] ミムシタ [○] マシ	ゴ [○] モカムシタ [○] マシ	○			
173			スナゴ [○] ミムシタ [○] マシ				○
174		ハムシ	マダ [○] ラアラケ [○] サルハムシ		○	○	
175			ト [○] ウカ [○] ネサルハムシ	○	○		
176			ヤナキ [○] ルリハムシ				○
177			ウリハムシモト [○] キ			○	
178			ウリハムシ		○		
179			クロウリハムシ	○	○		
180			フ [○] タクサハムシ		○		
181			サンゴ [○] シ [○] ュハムシ				○
182			ヒメト [○] ウカ [○] ネトビ [○] ハムシ	○			
183			イヌノフク [○] リトビ [○] ハムシ		○		
184			スイハ [○] トビ [○] ハムシ				○
185			ルリマルノミハムシ			○	
186			キスジ [○] ノミハムシ		○		
187		ゾ [○] ウムシ	ツチイロヒゲ [○] ホ [○] ソゾ [○] ウムシ				○
188			ヒラス [○] ネヒゲ [○] ホ [○] ソゾ [○] ウムシ				○
189			チビ [○] メナカ [○] ゾ [○] ウムシ	○			
190			ヒレルクチフ [○] トゾ [○] ウムシ			○	
191			ホリヒメカタゾ [○] ウムシ				○
192			スク [○] リゾ [○] ウムシ	○	○	○	○
193			トビ [○] イロヒョウタンゾ [○] ウムシ				○
194			コブキゾ [○] ウムシ				○
195			クチビ [○] コフキゾ [○] ウムシ		○		
196			チビ [○] コフキゾ [○] ウムシ				○
197			アルファルファタコゾ [○] ウムシ	○	○		
198			カシワノミゾ [○] ウムシ		○		
199			アカアシノミゾ [○] ウムシ			○	
200			タデ [○] ノクチフ [○] トサルゾ [○] ウムシ		○		
201			ツツジ [○] トケ [○] ムネサルゾ [○] ウムシ				○
202			カナムク [○] ラトケ [○] サルゾ [○] ウムシ				○
203		オサゾ [○] ウムシ	シハ [○] オサゾ [○] ウムシ		○		

表 9.3-17(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
204	ハチ	ハハチ	セクロカフラハチ				○
205		コマユハチ	コマユハチ科の一種		○		
205		ヒメハチ	アメハチ亜科の一種		○		
207			Ichneumon 属の一種		○		○
			ヒメハチ科の一種		○		
208		タマゴクロハチ	タマゴクロハチ科の一種				○
209		コツチハチ	Tiphia 属の一種	○	○		
210		ツチハチ	ヒメハラナカツチハチ	○	○		
211			キンケハラナカツチハチ		○		
212		アリ	オオハリアリ	○	○	○	
213			アシナガアリ				○
214			ハリブトシリヤゲアリ		○		○
215			ネイロシリヤゲアリ		○	○	○
216			ムネホソアリ		○		○
217			オオスアリ	○	○		
218			アミメアリ	○	○	○	○
219			クロコアリ	○			
220			トビイロシワアリ				○
221			クロオアリ		○	○	
222			イトウオアリ	○			
223			ウメマツオアリ	○	○		
224			クロヤマアリ	○	○		○
225			トビイロケアリ	○	○	○	○
226			アメイロアリ	○	○	○	○
227		トロボハチ	オオフオビトロボハチ本土亜種	○			
228		スズメハチ	セクロアシナガハチ	○	○		○
229			コカススズメハチ本土亜種				○
230		コハナハチ	アカネコハナハチ	○	○		
231			Lasioglossum 属の一種				○
232		ハキリハチ	スミジメハキリハチ				○
233		コシブトハナハチ	Nomada 属の一種				○
234			シロスシヒゲナガハナハチ				○
235			Ceratina 属の一種		○		
236			クマハチ				○
237	ハエ	カガシホ	ネリウシカガシホ				○
			Tipula 属の一種				○
238		ユスリカ	ユスリカ科の一種				○
239		クロハネキノコハエ	クロハネキノコハエ科の一種				○
240		ツリアブ	ホシツリアブ	○			
241			クロハネツリアブ	○			
242		ムシヒキアブ	マカリケムシヒキ				○
243		アシナガハエ	アシナガハエ科の一種		○		○
244		アタマアブ	アタマアブ科の一種		○		
245		ハサアブ	ホリヒラアブ		○		
			Epistrophe 属の一種				○
246			Sphaerophoria 属の一種		○		○
247			Melanostoma 属の一種		○		○
248			キアサメヒラアブ		○		
249			シママヒラアブ		○		
250			ヒラママヒラアブ		○		
251		ミハエ	ヒラヤマミメクサガミハエ		○		
252		ヤチハエ	ヒゲナカヤチハエ		○		
253			Tetanocera 属の一種		○		
254		クロツヤハエ	クロツヤハエ科の一種		○		
255		キモグリハエ	キモグリハエ科の一種				○
256		ミキワハエ	Ochthera mantis		○		
257			ミキワハエ科の一種		○		○
258		フンバエ	ヒメフンバエ		○	○	
259		イエハエ	イネタキイエハエ		○		
260			ヘリグロヒメナハエ		○		
261			イエハエ科の一種		○		
262			オオクロハエ			○	○
263			ツマグロキンバエ		○		
264		ニクハエ	センチニクハエ		○		
265	チョウ	マダラカ	ホタルカ		○		
266		メイ	シロオビノメイ		○		
267		セセリチョウ	イチモンジセセリ	○	○		○
268			チャバネセセリ		○		
269		アゲハチョウ	アオスジアゲハ	○	○		○
270			サカサキアゲハ	○			
271			クロアゲハ本土亜種		○		
272			ナミアゲハ		○		

表 9.3-17(5) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
273	[チョウ]	シロチョウ	モンキチョウ		○		
274			スジク ^ろ シロチョウ		○		
275			モンシロチョウ	○	○		
276		シジミチョウ	ウナシジミ		○		
277			ヤマトシジミ本土亜種	○	○		○
278		ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ		○		
279		タテハチョウ	ヒメアカタテハ	○	○		
280			キタテハ		○		
281		トクガ ^カ	チャトクガ ^カ				○
282		ヒトリカ ^ガ	カクモンヒトリ		○		
計	12 目	113 科	282 種	78 種	164 種	64 種	81 種

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.3-18 に示す 1 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.3-19 に示すとおりである。

表 9.3-18 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	コウチュウ	オサムシ	ヤマトツクリゴミムシ				VU
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
VU: 絶滅危惧 II 類

表 9.3-19 注目される昆虫類の生態及び確認状況

【種 名】：ヤマトツクリゴミムシ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：ツクリゴミムシ類の中では脚が赤褐色であることで区別できる。芝地などに設置された灯火によく飛来する。 【確認状況】：春季に、調査範囲の池の岸辺の湿潤な地面において、個体が確認された。	
---	---

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）、「新訂原色日本昆虫大図鑑 II 甲虫編」（平成 19 年 5 月 （株）北隆館）による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.3-20(1) 及び(2) に示すとおり 1 目 16 科 92 種のクモ類が確認された。

確認種は、造網性のオナガグモ、コガネグモ、ジョロウグモ、地中性のキシノウエトタテグモ、ジグモ、土壌性のイマダテテングヌカグモ、コタナグモ、徘徊性のササグモ、マミジロハエトリ等であった。

表 9.3-20(1) クモ類確認種

No.	科名	種名	確認状況			
			平成 24 年		平成 25 年	
			夏季	秋季	冬季	春季
1	トタテグモ	キシノウエトタテグモ			○	○
2	ジグモ	ジグモ	○		○	
3		ワスレナグモ				○
4	ウスグモ	カタハリウスグモ				○
5	ヒメグモ	カガキヒメグモ			○	○
6		Parasteatoda 属の一種			○	
7		アシブトヒメグモ			○	○
8		シロカネイソウロウグモ				○
9		オナガグモ			○	
10		チリイソウロウグモ			○	
11		シモフリミシジグモ			○	
12		カレハヒメグモ			○	
13		ヒシカダグモ			○	
		Episinus 属の一種			○	
14		ヒゲナカヤリグモ			○	
15		ハンゲツオスギグモ				○
16		ムナボシヒメグモ			○	○
17		キヨヒメグモ				○
18	サラクモ	タテヤマナカグモ				○
19		ハラジロムナキグモ				○
20		デニソフサラクモ			○	○
21		ナニワナンキングモ			○	
22		クロナンキングモ				○
23		イマダテテングヌカグモ			○	
24		サラクモ科の一種			○	
25	コガネグモ	ハナリグモ				○
26		ナカムラオグモ				○
27		ヤエノオグモ			○	
28		オニグモ			○	○
		Araneus 属の一種		○		
29		コガネグモ				○
		Argiope 属の一種			○	
30		コミグモ				○
31		マルコミグモ				○
32		コガネグモタマシ				○
		Larinia 属の一種			○	
33		ヤマシロオグモ				○
34		サツマノミタマシ				○
		Neoscona 属の一種			○	
35		ジョロウグモ		○		
36		ゲホグモ			○	
37		ズクロオグモ				○
38	アシナガグモ	チュウカダシロカネグモ				○
		Leucauge 属の一種			○	
39		アシナガグモ				○
40		ウロコアシナガグモ				○
		Tetragnatha 属の一種			○	
41	タナグモ	クサグモ				○
42		コクサグモ			○	○
43		コタナグモ				○
44		メカネチグモ			○	
45		Iwogumoa 属の一種			○	
		タナグモ科の一種				○
46	キシダグモ	イオウイロハシリグモ				○

表 9.3-20(2) クモ類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 24 年		平成 25 年	
				夏季	秋季	冬季	春季
47		コモリクモ	クロコモリクモ				○
48			シツチコモリクモ			○	
49			ハククロコモリクモ				○
50			ウツギコモリクモ		○	○	
			Pardosa 属の一種				○
51			キハコモリクモ			○	○
52			アライコモリクモ				○
53		ササクモ	クリチャササクモ		○		
54			ササクモ	○	○		○
			Oxyopes 属の一種			○	
55		フクロクモ	アシナガコマチクモ				○
			Chiracanthium 属の一種	○			
56			コフクロクモ				○
57			ヤハスフクロクモ			○	
58			マダラフクロクモ			○	
			Clubiona 属の一種	○	○	○	○
59			イタチクモ				○
60			ヤバネリマクモ				○
61		リシクモ	ネコクモ			○	
62			Haplodrassus 属の一種			○	
63			シノノモンビクモ				○
64			ホシロトンビクモ				○
65		カニクモ	キハダカニクモ				○
66			ハナクモ	○	○		
67			アズナクモ				○
68			Tmarus 属の一種			○	
69			カウカニクモ				○
			Xysticus 属の一種				○
70		エビクモ	キハダエビクモ			○	
71			アサヒエビクモ				○
			Philodromus 属の一種			○	
72			ヨシヤクモ			○	○
73		ハエトリクモ	シヤコクモ				○
74			ネコハエトリ		○	○	
75			カタオカハエトリ				○
76			マミシロハエトリ	○	○		○
77			コシヤバハラハエトリ				○
78			ヤハスハエトリ		○	○	
79			ヨタンハエトリ				○
80			シラヒゲハエトリ				○
81			ヤカタアリクモ			○	○
82			タイリクアリクモ		○		○
83			ヤサアリクモ		○		
84			アリクモ		○		
			Myrmarachne 属の一種			○	
85			マダネアサヒハエトリ				○
			Phintella 属の一種		○		
86			ミスジハエトリ			○	
87			イナズマハエトリ				○
88			チクニハエトリ				○
89			ヒメカラスハエトリ				○
			Rhene 属の一種			○	
90			アオヒハエトリ		○		○
91			シラホシコケチヤハエトリ				○
92			トサハエトリ				○
計	1 目	16 科	92 種	6 種	15 種	44 種	63 種

b. 注目される種

確認されたクモ類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.3-21 に示す 3 種が該当した。

注目されるクモ類の生態及び確認状況は、表 9.3-22 に示すとおりである。

表 9.3-21 注目されるクモ類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	クモ	トタテグモ	キシノウエトタテグモ			NT	VU
2		ジグモ	ワスレナグモ			NT	NT
3		コガネグモ	コガネグモ				VU
計	1 目	3 科	3 種	0 種	0 種	2 種	3 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト クモ類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT:準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

表 9.3-22 注目されるクモ類の生態及び確認状況

【種 名】：キシノウエトタテグモ 【分 布】：本州、四国、九州 【形 態】：前体は黒褐色で歩脚はやや赤みを帯びる。腹部は紫褐色、褐色あるいは黒褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8 眼、3 爪を有し、書肺は 2 対。上顎は強大で馬鋏を有し、下顎に多数の歯状突起を備える。前内疣の基部はやや接近する。地中に比較的短い管状住居を作り、入り口に扉をつける。 【確認状況】：冬季及び春季に、計画地外の林床の小高い地面及び石垣の隙間の土部分において、個体と巣が確認された。	
【種 名】：ワスレナグモ 【分 布】：北海道、本州、九州 【形 態】：雌の背甲及び歩脚は黄褐色または淡褐色、腹部は紫褐色、褐色あるいは黄褐色。雌は全体に黒褐色で小さく、別種のように見える。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8 眼、3 爪を有し、書肺は 2 対。上顎は強大で、下顎の前側面は長く突出する。雌の第 1 歩脚は他の歩脚に比べて小さい。地中に縦穴式の住居を作る。 【確認状況】：春季に、計画地外の地上部に造巣していた個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：コガネグモ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：メスの背甲は黒褐色の地に銀白色の毛が密生する。腹部背面には黄色と黒色の太い横縞模様がある。オスは全体に黄褐色で別種のように見える。腹部の色彩や独特の斑紋からメスの識別は容易である。大きい円網を張る。 【確認状況】：春季に、計画地外の草地において、幼体が確認された。	

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 3)地形及び地物の状況」(p. 61 参照)に示したとおりである。計画地は、高い盛土地に位置している。計画地及びその周辺は、地盤高が T.P. +5m 程度の平坦な地形である(計画地は T.P. +4m～5m 程度)。

計画地及びその周辺の地質は、表層は砂質土や粘性土等からなる埋土層(H)であり、その下部には、砂質土や粘性土からなる有楽町層(Y)、東京層(T)、江戸川層(E)が分布し、一部七号地層(N)も分布する。

イ. 植生等の状況

植生等の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4)調査結果 5)植生の状況」(p. 100 参照)に示したとおりである。計画地は主に「市街地」であり、計画地西側の江戸川区臨海球技場第二には「工場地帯」が広がっている。また、計画地の東側は「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」に区分されている。

計画地西側の江戸川区臨海球技場第二には芝地・グラウンドが広がり、東側の葛西臨海公園第二駐車場は施設地等、計画地中央の未利用地は人工裸地に区分される。計画地内の植生は、中央南側にセイタカアワダチソウ群落、第二駐車場の北側及び西側には側溝にヨシ群落が見られる。また、計画地の南側及び西側の外周にクロマツ植林が広がっている。

また、計画地の北側は施設地等となっており、東側及び南側に隣接する葛西臨海公園内には植栽樹林群が見られる。

ウ. 大気環境

大気環境の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 1)大気等の状況」(p. 50 参照)に示したとおりである。

気象の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4)調査結果 6)気象の状況」(p. 103 参照)に示したとおりである。計画地周辺の東京管区気象台における年間降水量及び年平均気温の平年値(昭和 56 年～平成 22 年)は、1,528.8mm、15.4℃である。

エ. 地域社会とのつながり

計画地は、下水処理施設計画地の一部に位置しており、江戸川区臨海球技場第二や駐車場等が存在する。計画地の東側は葛西臨海公園第二駐車場であり、舗装され植生は見られない。計画地西側の江戸川区臨海球技場第二の南側及び西側は、荒川河口に隣接しており、堤防を隔てた公園側にはクロマツが植栽されている。

江戸川区臨海球技場第二は、児童等の野球の練習場として利用されている。また、荒川河口の堤防上はサイクリングコースや遊歩道(健康の道)となっており、サイクリング、ジョギングやウォーキングコースとして利用することができる。

計画地内の緑はあまり多くないが、隣接する葛西臨海公園には多様な樹種が植栽されており、ウメ、クロマツ、サクラ、フサアカシア、ヤマモモ、ネムノキ、スイセン、ハマボウ、ハマナス、コスモス等の四季折々の植物を楽しむことができる憩いの場となっている。

計画地及びその周辺は、昭和末期(昭和 48 年～平成元年)に埋め立てられた埋立地であり、自然地形等は存在しない。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.3-23 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の 3 区分に分類される。これらの環境区分で見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.3-2 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではクロマツ、マテバシイ等の植栽樹林、草地環境ではセイタカアワダチソウ、ススキ、ヤブガラシ、タンキリマメ、ヨシ等の草本群落、市街地等では、ケヤキ、ヤマモモ等があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、セミ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、ヒナコウモリ科の哺乳類、オナガ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ等の鳥類のほか、は虫類のカナヘビやクモ類があげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等があげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く小型鳥類や昆虫類を捕食するオオタカ、ノスリ、チョウゲンボウの猛禽類があげられる。

表 9.3-23 環境区分別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		計画地及びその周辺は、地盤高が T.P. +5m 程度の平坦な地形である（計画地は T.P. +4m～5m 程度）。計画地及びその周辺の地質は、表層は砂質土や粘性土等からなる埋土層（H）であり、その下部には、砂質土や粘性土からなる有楽町層（Y）、東京層（To）、江戸川層（E）が分布し、一部七号地層（N）も分布する。		
環境区分別の状況		樹林環境は、葛西臨海公園の園地ではマテバシイを主体とする人工的な植栽樹林群とクロマツ植林である。計画地の周辺では、街路樹等としてエノキ、ムクノキ、サツキ、ドウダンツツジ等が植栽されている。 主な動物相は樹林環境に依存するコゲラ、シジュウカラ等の鳥類、アブラゼミ等のセミ目のほか、森林性のモリチャバネゴキブリ等の昆虫類や、キシノウエトタテグモ等のクモ類が生息する。	草地環境は、計画地の大部分を占有し比較的乾燥した箇所ではセイタカアワダチソウやチガヤ、ススキ、ヤブガラシ、タンキリマメ等が生育している。また、水分の多い箇所ではヨシ等が生育している。また、計画地周辺にも同様の草地環境が広がっている。 主な動物相は、草地環境に依存するヒバリ、オオヨシキリ等の鳥類のほか、カンタン、ショウリョウバッタ等の昆虫類やコガネグモ等のクモ類が生息する。	計画地内の北側及び西側には、事務所等があり人工裸地と人工構造物が存在する。計画地周辺は、専用商業施設、教育文化施設、集合住宅、専用工場、等からなる市街地が形成されている。 市街地は主に人工構造物で占められているが、道路沿いの街路樹にエノキ、ケヤキサルスベリ等の植栽が見られる。 主な動物相は、ヒナコウモリ科の哺乳類、チョウ類等の昆虫類やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。
生態系構成要素	最上位消費者	鳥 類：オオタカ、ノスリ	鳥 類：チョウゲンボウ、ノスリ	鳥 類：チョウゲンボウ
	上 位消費者	鳥 類：モズ	鳥 類：モズ、ハシブトガラス	鳥 類：ハシブトガラス
	中 位消費者	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：オナガ、シジュウカラ、ジョウビタキ等 クモ類：キシノウエトタテグモ、ワスレナグモ等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：ヒバリ、ヒヨドリ、オオヨシキリ 等 は虫類：カナヘビ クモ類：コガネグモ、ジョロウグモ 等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：スズメ、セグロセキレイ 等 は虫類：カナヘビ 両生類：ウシガエル
	下 位消費者	鳥 類：キジバト 等 昆虫類：アブラゼミ、ミンミンゼミ、モリチャバネゴキブリ 等	鳥 類：キジバト 等 昆虫類：カンタン、ショウリョウバッタ、モンシロチョウ 等	昆虫類：シオカラトンボ、アオスジアゲハ 等
	生産者	植 物：クロマツ、マテバシイ 等	植 物：セイタカアワダチソウ、チガヤ、ススキ、ヤブガラシ、タンキリマメ、ヨシ 等	植 物：ケヤキ、ヤマモモ 等

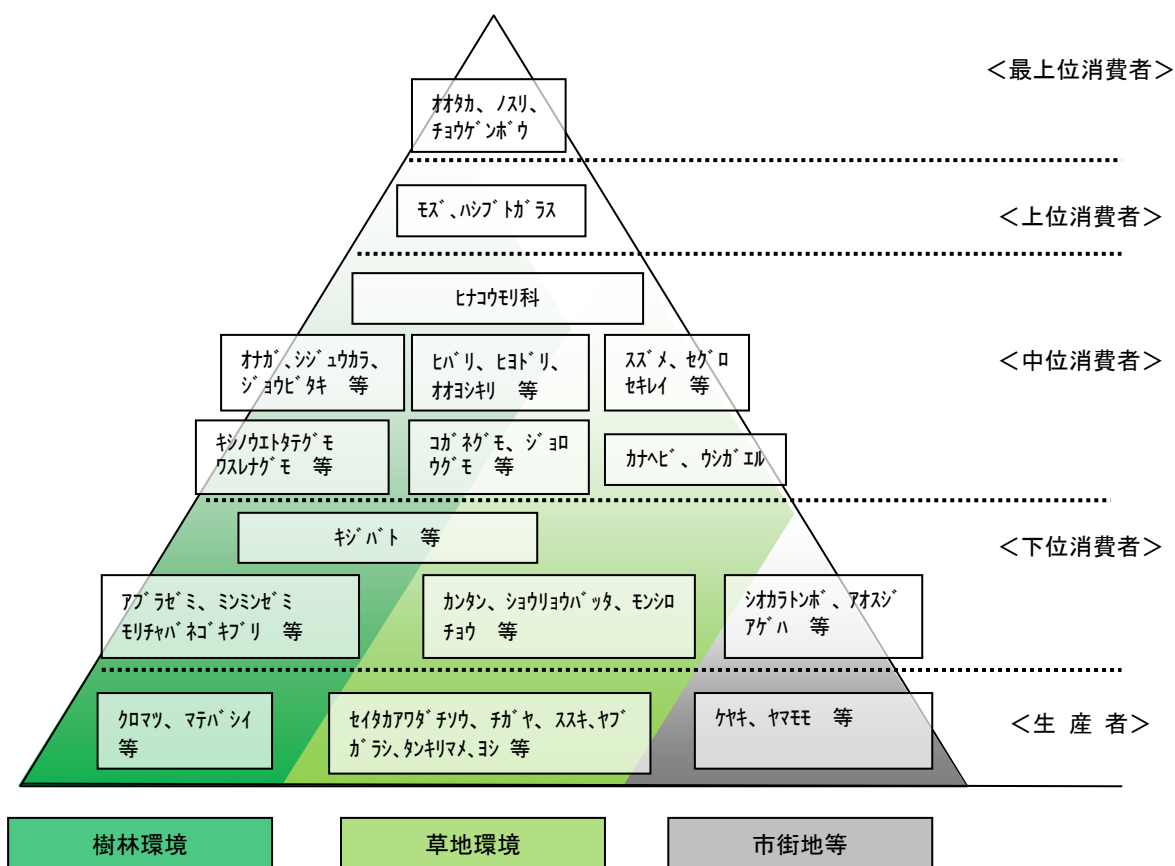


図 9.3-2 食物連鎖に注視した生物相の階層構造

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 4)土地利用の状況」(p. 61 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺の土地利用は、屋外利用地・仮設建物、公園・運動場等となっている。計画地北側には供給処理施設、専用工場、スポーツ・興行施設等があり、更に北側には、集合住宅や教育文化施設等が立地している。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.3-24(1) 及び(2) に示すとおりである。

表 9.3-24(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	(文化財の定義) 第二条 四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。） (現状変更等の制限及び原状回復の命令) 第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	(目的) 第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。 (責務) 第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。 2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。 3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。 (捕獲等の禁止) 第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合 二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合 三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	(目的) 第一条 この法律は、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するとともに、猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保（生態系の保護を含む。以下同じ。）、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。 (鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止) 第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。 二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。 三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。

表 9.3-24(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	(目的) 第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。 (飼養等の禁止) 第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合 二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合 (放出等の禁止) 第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合 二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.3-25 に示すとおりである。

表 9.3-25 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護管理事業計画 (平成 27 年 3 月 東京都)	・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護及び管理することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」を定める。 第一 計画の期間 第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項 第三 鳥獣の人工増殖に関する事項 第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項 第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項 第六 特定計画に関する事項 第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項 第八 鳥獣保護管理事業の実施体制に関する事項 第九 その他
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。

9.3.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、東京 2020 大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催前、大会開催後とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、東京 2020 大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内のセイタカアワダチソウ群落や、ヨシ群落等の草本等の植物の生育地が改変される。これらの植生は、埋立後の造成地及び排水側溝に自然繁茂したものであり、計画地周辺の植物相及び植物群落の改変の程度は小さいと考える。現地調査の結果によると、計画地内には注目される植物のタンキリマメが生育している。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。注目される植物のタンキリマメの生育箇所は、計画地南側のクロマツ植林の林縁部であり、残存する。また、既設の緑地と合わせて約 9,970m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画としていることから、多様な植物相及び植物群落が創出されると予測する。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、草地を主たる生息地とする鳥類のヒバリ、バツタ目、コウチュウ目、ハエ目等の昆虫類の生息地が改変される。また、現地調査の結果によると、計画地内では注目される鳥類 2 種が確認されており、トビは周辺を含めた上空の飛翔、モズは周辺を含めた植樹林内での確認となっている。

事業の実施に当たっては、既設の緑地と合わせて約 9,970m²の範囲に地上部緑化を行う計画としている。これにより、確認された鳥類、昆虫類等の動物相及び動物群集は維持され、生息地が創出されると予測する。なお、鳥類の注目される種は、計画地と隣接した葛西臨海公園内の植樹帯や草地、海岸等を主な生息環境としており、公園内は事業による改変を受けないことから、周辺を含めた動物相及び動物群集は維持され、計画地内に新たに創出される緑地についても生息地として利用が可能と考えられる。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境、土壌が改変され、一部の既存樹木が点在する低木が伐採される。このため、草地環境に生育する植物と、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の生息環境が変化するおそれがあると予測する。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。また、既設の緑地と合わせて約9,970m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画としている。これにより、移動性の低い動物相及び動物群集(地上徘徊性の昆虫やクモ類等)の多様な動植物の生育・生息環境が創出されると予測する。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草地環境、土壌が改変され、一部の既存樹木が伐採される。このため、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係わる生育・生息環境が改変される。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。また、既設の緑地と合わせて約9,970m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画としていることから、現況と比較して多様な生態系が創出されると予測する。

9.3.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・クロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。
- ・計画地内には、既設の緑地と合わせて約 9,970m²の新たな緑地を整備する計画としている。
- ・地上部緑化として、高木、中木等を植栽する。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。
- ・タンキリマメの工事後の生育状況については、フォローアップ調査で確認する。
- ・植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都環境局）等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮して選定する。

9.3.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる草地環境や一部の既存樹木の伐採、土壌の改変が行われるが、埋立後の造成地に自然繁茂したものであり、計画地周辺の生物の生育・生息環境の改変の程度はほぼ生じないと考える。

事業の実施に当たっては、計画地南側及び西側の外周に生育するクロマツ植林は、工事による影響を回避し既存緑地として保全する計画としている。また、既設の緑地と合わせて約 9,970m²の範囲に芝生のほか高木、中木等を植栽する計画としており、植栽樹種は「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都環境局）等を参考にするとともに、隣接する葛西臨海公園との連続性に配慮することから、動植物の生育・生息環境は向上すると考える。

以上のことから、計画地における生物の生育・生息環境は新たに創出され、計画地周辺も含めた地域としての生物・生態系の評価の指標は満足するものと考ええる。